

令和4年度選書・除籍について（報告）

選書については、市と指定管理者の司書の合議制で行っています。市の示した選書の方向性に沿って指定管理者が年度の資料収集計画を作成し、実際の選書や選定会議を経て、市が最終確認及び資料購入の決定を行っています。

■ 選書の前提

- ・ 4館を一元化した資料管理とする。
- ・ 図書館としてストック（保存及び長期に利用する基本図書）する資料とフロー（比較的短期間で入れ替わる図書）する資料に留意した選書を行う。
- ・ 市立図書館として一体的な蔵書構成を図りつつ、中央図書館、地区館ともに基本図書及び利用度の高い資料を体系的に収集する。
- ・ 中央図書館は、拠点館として地区館を補完する多角的な選書を行う。

■ 令和4年度の選書の方向性

1. 図書館利用拡大のための選書

市民生活向上のために必要な図書館利用（令和2年度登録率：市民の8.1%程度）を拡大する必要がある。そのため顕在化しているニーズだけでなく、未だ図書館を利用していない市民が必要とする資料や情報、社会が求める資料や情報をとらえて選書を行う。令和4年度は、情報リテラシー支援と子ども読書活動推進の対象としている「働く世代」と「子育て世代」にむけた選書に重点を置く。

〈実績〉

- ・ 「働く世代」や「子育て世代」を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、新しい情報や多様な立場に対応する資料を収集した。
- ・ 図書館利用の少ない「ティーンズ世代」「団塊ジュニア世代」に向け、各世代の興味・関心が高い分野の資料を収集した。また、学校・家庭・職場において、困難や多様な問題を抱える利用者の課題解決の一助となるような資料を収集した。

〈評価・課題〉

- ・ 引き続き、図書館利用拡大のため未利用者のニーズを捉える方法を研究する。また、社会情勢等を踏まえ、様々な立場の人の幅広いニーズに対応できるよう資料を選定する。
- ・ 利用者の情報収集ツールも多様化しているため、インターネット、SNSなどのメディアの情報にも留意し、社会の変化に対応した選書を行う。

2. 各主題において情報活用やリテラシー獲得を進める基本的な資料の選書

図書館では、市民が生活や仕事上の課題について自己決定するための資料提供と情報活用支援を事業の最重点としている。選書においては、図書館の役割をふまえ、どの分野においてもエビデンスに基づく適切な図書を判断する。また、参考図書・調べ学習資料は、デジタル資料を併用しながら、基本図書を充足する。

〈実績〉

- ・市民の情報収集、課題解決のための資料を、どの分野もエビデンスに留意し選書した。
- ・調べ方や考え方に関する資料、各分野の入門書など、自ら調べ、自己決定する助けとなる資料を収集した。

〈評価・課題〉

- ・世代を問わず多くの人が膨大な情報を取得できる今日、リテラシー獲得の重要性が高まっており、引き続き確かな情報をわかりやすく伝える資料をそろえるとともに、調べ方や考え方を身につけることのできる資料を重点的に収集していく。

3. 基本図書（一般書）の充実

図書館では、市民の学習や情報取得に役立つ入門書、教養書、実用書、専門書等の基本的な図書をそろえる。また、利用の多い文学や娯楽書と基本図書のバランスを取り、多くの市民の理解を得られる蔵書構成を目指す。なお、各館の地域ニーズも留意する。

〈実績〉

- ・図書館にそろえておくべき基本的な図書について、地区館では、主に入門書、教養書、実用書を中心に、地域ニーズにも留意し選書した。中央館においては、加えて学術的な専門書等も収集した。

〈評価・課題〉

- ・どの分野も基本的な資料が不足なくそろえよう選書し、除籍資料の買い替えにも留意する。利用の多い資料とのバランスにも引き続き留意する。
- ・選書基準と収集方針に沿って基本図書の選定を行うため、調査と議論を行う選書体制を継続する。

4. 児童書の買い替え

児童図書は長く読み継がれているスタンダードな図書（基本図書）を蔵書の核とするとともに、司書による新刊書の評価を継続する。すべての図書館で、基本図書を必要数備え、常に更新（買い替え）することで、児童や保護者が、それらの本と出合える機会を増やす。

〈実績〉

- ・全館で絵本を中心に基本図書の買い替えを継続した。長く読み継がれている図書をきれ

いな状態で書架にそろえておくことで、利用につながるよう努めた。

- ・新刊評価を継続し、基本図書の評価基準の共有化を図った。

〈評価・課題〉

- ・貸出実績のよい資料だけではなく、長く読み継がれた基本図書がいつでも手に取れるよう、引き続き買い替えを行っていく。
- ・基本図書の買い替え及び新刊評価を継続するにあたり、選定基準を理解し、選書に必要な知識・経験を備えた司書を育成していく必要がある。

5. 誰もが利用可能なユニバーサル資料の拡充

障害者、高齢者、日本語が母語でない者、子ども等、誰でも利用可能な様々な形態の資料や提供方法を検討し、ユニバーサル資料を拡充する。

〈実績〉

- ・LLブック、点字付き資料、大活字資料などのバリアフリー資料のほか、外国語対訳資料、ビジュアルでわかりやすい資料にも留意し選定した。

〈評価・課題〉

- ・ユニバーサル資料として、現在収集している形態のほかどのような資料が支援となり得るのか引き続き研究し、収集につなげる。

■ 市が担当した業務

1. 地域資料

〈実績〉

- ・郷土資料については、一般に流通している資料の中で該当するものに留意し選書した。市内各団体の配布物や情報誌等は、図書館に送付される資料のほか、市内施設を巡回し収集した。
- ・行政資料については、秘書広報課と連携した収集と受け入れの体制が順調に機能し、収集することができた。

〈評価・課題〉

- ・郷土資料・行政資料ともに、基準に則って収集を進めることができた。
- ・地域資料の収集をさらに進めるため、展示やイベント等を通じて、市民や市内団体に収集への協力を呼び掛けていきたい。

2. 参考図書

〈実績〉

- ・一般書と同様に、不足する分野の基本図書や更新が必要な資料を選書した。
- ・インターネットやデータベースでの情報取得が可能になったことにより、紙媒体で所蔵する必要性が低くなった参考図書もあるが、その中でも所蔵すべき資料について、選定の中

で個別に検討した。

〈評価・課題〉

- ・引き続き、各分野の基本図書の確認・更新を行っていく。
- ・オンラインデータベースについて、利用状況を踏まえ追加や入れ替えを検討する。

3. ハンディキャップ資料

〈実績〉

- ・今年度より開始した学校へのバリアフリー資料の貸し出しのため、さわる絵本やLLブックのほか、誰もが楽しめるやさしい図鑑や絵本を選定した。
- ・マルチメディアデイジー資料の閲覧及び貸出しを開始するにあたり、貸出用資料を用意した。

〈評価・課題〉

- ・ユニバーサル資料、マルチメディアデイジー資料について、所蔵を増やしていくほか、利用を拡大できるよう広報にも力を入れていく。

■ 除籍

〈実績〉

- ・除籍基準及び除籍フローに基づき適切に行った。地区館及び中央図書館部門別選定会議で行った除籍について市が最終確認を行い、疑義がある場合はその都度担当者間で検討し、慎重に判断した。
- ・市の最終確認においては、除籍候補資料から地域資料（必須保存）や基本図書（時代性、学術的価値、利用度、類書を勘案）について検討した上で除籍の決定をしている。

〈評価・課題〉

- ・除籍事由を明確化し、複数の目で資料を確認する除籍フローにより、引き続き丁寧に除籍を進めていく。
- ・除籍検討を行う司書の収集方針の理解と、基本図書を判断する知識・経験が必要である。

令和4年度資料収集計画の実績と自己評価

指定管理者 TRC・野村不動産パートナーズグループ
代表団体 株式会社図書館流通センター

■「令和4年度 資料収集計画」について

- ・令和4年度は、生活上の課題解決のための情報収集が重要となる「働く世代」「子育て世代」のニーズに着目し選書を行った。
- ・全館において図書館にそろえておくべき「公共性の高い資料」「基本図書」に留意して選書を行った。加えて中央館においては、専門書など地区館を補完する資料を収集した。
- ・これまでの利用状況や地域性を考慮に入れ、中央図書館では「働く世代」、滝山図書館では「10～20代」と「高齢者」、ひばりが丘図書館では「子育て世代」、東部図書館では「団塊ジュニア世代」に向けての選書に力を入れた。

➤ 働く世代、子育て世代にむけた選書

【自己評価】

- ・働く世代に向け、ビジネスにおける新しいキーワード、不安定な社会状況、多様化する働き方に留意し選書を行った。
- ・全館の子育て支援コーナーでは、子育てのノウハウ本に限らず、保護者自身の課題解決に寄与する資料を収集した。

【課題】

- ・多様な資料をそろえる中央図書館の仕事・情報コーナーにおいて、必要な情報にアクセスしやすい書架を目指す。
- ・引き続き、働く世代・子育て世代を取り巻く環境の変化に留意し、選書に反映させる。

➤ 公共図書館としての基本資料の充実

【自己評価】

- ・各主題において、リテラシー獲得のためのわかりやすい資料を選定した。また、著者の経歴やこれまでの著作、出版社の出版傾向に留意し、エビデンスの確立された資料を選定した。
- ・4館一元化を意識した選書、基本図書と実用書のバランスを考えた選書を行った。
- ・誰もが利用可能なユニバーサル資料や、図書館利用に困難のある当事者に関する資料を収集した。

【課題】

- ・引き続き、どの分野においてもエビデンスに基づく適切な資料を収集する。
- ・利用者満足度調査、未利用者に向けたアンケートなどの結果も参考に、引き続き市民のニーズに留意し、選書に生かしていく。

➤ 児童書

【自己評価】

- ・基本図書の買い替えを継続し、新刊評価で高評価を得た資料については複本を購入した。
- ・調べ学習用資料は、新しい情報が記載されている資料や団体貸出で利用が見込まれる資料について重点的に選定し、蔵書を強化した。
- ・バリアフリー資料は、文章が平易なものや絵が多く内容を理解する助けとなる資料も収集した。
- ・ティーンズ資料は、学びの補助となる資料や職業調べに活用できる資料を中心に、多様な環境に置かれる子どもたちにも留意した資料を収集した。また、ぽけ☆ま編集部の編集会議やイベント等を通し、実際の中学・高校生世代のニーズを伺い選書した。

【課題】

- ・基本図書の買い替え、新刊評価を継続して行っていく。
- ・ティーンズ資料については、各館で収集する資料の内容に偏りのないよう留意し選定する。

➤ 滝山図書館

【自己評価】

- ・図書館利用拡大のため、若い世代に向けた選書を進めた。進路に限らず中学・高校生世代の興味に対応する資料を幅広く収集した。
- ・高齢者の心身の健康に関する資料や充実した生活を送るために役立つ資料を収集した。
- ・健康・医療の資料は、類書の少ない分野にも留意し選定した。また、古くなった情報の更新を進めた。

【課題】

- ・健康・医療の資料は、情報が古いものが残っているため、エビデンスに留意し更新を続ける。
- ・ヤングケアラーによる介護や貧困など、近年表面化し、身近になってきた若い世代の社会問題を解決する手立てとなる資料も引き続き留意して収集する。

➤ ひばりが丘図書館

【自己評価】

- ・子育てのノウハウ本だけでなく、子育て世代の多様な悩みの解決に役立つ資料が選定できた。
- ・文芸書を中心に経年劣化の進んだ資料の買い替えを行った。
- ・日本語を母語としないことやハンディキャップにより、図書館利用が困難な児童を支援するための資料を購入することができた。

【課題】

- ・引き続き、多様化する子育て世代の課題を捉え、解決に役立つ資料を選定する。

- ・文芸書以外の基本図書の買い替えについても積極的に進める。
- ・英語以外の外国語話者にも対応可能な児童書に留意する。

➤ 東部図書館

【自己評価】

- ・シニアの暮らしや学習に役立つための資料について、入門書や平易でわかりやすいものを中心に選定した。
- ・団塊ジュニア世代の利用拡充を目指し、ビジネスやスキルアップの資料等、多様化する働き方を意識して収集した。

【課題】

- ・今後も多様化が進むであろう、生き方・働き方・仕事に役立つ資料の収集を継続する。
- ・入門書など初心者・初学者向けの資料だけでなく、分野によっては一歩進んだ内容の資料の選定も行い、生涯学習のサポートができるようにする。

令和4年度 資料収集計画

■令和4年度 指定管理者の選書について

「市民の自立を支援する図書館」を目指す図書館像とし、市民が求める情報に的確にたどりつき、学校や暮らし・仕事に関する課題を解決するための資料提供を選書の柱とします。

令和4年度は、図書館の利用率が低い現状に対し、市民の具体的な困りごと（課題）を解決する資料、誰もが利用可能なユニバーサルな資料、子どもの成長を支援する資料、個人では揃えにくい公共性の高い資料などに留意した選書を行い、より多くの市民が図書館資料を活用できる、魅力ある蔵書を目指します。

また、コロナ禍によるリモートワーク・学習機会の拡大、ビジネスや行政のDX進行などといった社会変化により、個々の市民の情報活用能力の必要性は高まっています。そのため、図書館は基本図書をそろえ、情報活用とリテラシー獲得を進める資料を収集します。

■選書の重点目標

働く世代・子育て世代にむけた選書

仕事や子育て、生活上の課題解決のための情報収集が重要になる世代です。子どもの生涯にわたる図書館利用をはかるためにも、この世代のニーズに着目して選書を行います。

- ・働く世代の仕事に役立つ資料を収集し、情報の古くなった資料は適宜入れ替えを行う。社会人の自己研鑽やリカレント教育にも留意する。
- ・コロナ禍における働き方の多様化、ジェンダーやハンディキャップ、不安定な社会状況など、今の社会を知り、個々の選択を助ける資料を収集する。
- ・子育て世代の課題を解決する手立てとなる資料と情報を幅広く提供する。
- ・現状の利用実績だけでなく、社会の動きや市民の関心事を捉えた選書に努める。

公共性の高い基本資料の充実

市教育委員会が定めた収集方針と、市が示す「令和4年度選書の方向性」に基づき、「公共性」「基本図書」「利用度」を考慮して選書を行います。

- ・各主題において情報活用やリテラシー獲得を進める資料を選書するが、高齢者では本から知識や情報を得る方が多いことをふまえ、リテラシー獲得のための資料提供に留意し、エビデンスに基づく適切な選書を行う。
- ・4館一元化（4館の蔵書を1つの図書館とみなす）の蔵書構成を目指し、高価な図鑑や専門的資料などを含む基本図書と、利用の高い読み物や実用書をバランスよく選書する。そのため、各館・各担当は図書館全体を俯瞰して選書する。
- ・誰もが利用可能なユニバーサル資料を拡充するとともに、当事者の悩みや実践報告など、図書館利用に困難がある市民のニーズにも留意した選書を行う。

子どものための選書

すべての子どもに読書の楽しさを伝え、学習支援を行うことは、図書館の基本的な役割です。

そのため、長く読み継がれた基本図書を常に備え、児童書のスタンダードを示す取り組みを継続します。

■児童書

- ・基本図書の買い替えを進め、常に状態の良い資料を各館の書架に配置する。
- ・新刊評価を継続し、時代により変化していく基本図書について、社会情勢や地域性を意識し、今の時代に合うようブラッシュアップしていく。
- ・日本語を母語としない子どもに向けた「やさしい日本語」の資料や多言語資料を収集する。
- ・ティーンズ世代に向けた資料収集（主に中学生が、自身で物事を考えて理解する手助けとなる資料、進路選択のための資料等）は、様々な生活環境や多様な個性の受け皿となるような幅広い分野から、実際のティーンズ世代から得られた情報を反映しながら選定する。
- ・学校への団体貸出用資料、基本図書の全館への配置、ユニバーサル資料の提供など、学校教育を支援し連携するための資料の充実を図る。

■地区館

滝山図書館

多目的室の設置により増加傾向にある10代～20代の図書館資料利用を上げるとともに、利用の中心である高齢者にむけた資料の充実を図る。隣接して滝山相談室、わかくさ学園が設置されたため、医療情報に加え療育関連資料にも留意する。

- ・中学生の図書館利用を上げるため、幅広い興味に対応できるよう資料を収集する。
- ・健康医療の資料は継続して選書し、高齢者向け実用書と介護・ケア関係者向け資料など、高齢者の生活安定実現に役立つ資料を収集する。
- ・児童書の買い替えを積極的に進める。

ひばりが丘図書館

子育て世帯が多い地域性のため、引き続き子育て情報の提供に重点を置く。これまで進めてきた基本図書の買い替えを継続する。

- ・社会状況の変化や多様な意見に配慮した子育て世代への情報提供のための選書を継続する。
- ・劣化が進む文芸書の買い替えを進める。
- ・すべての子どもたちに等しく読書の機会を提供することを目的に、バリアフリー資料やLLブック、多言語資料を収集する。

東部図書館

新たな利用者として見込める「団塊ジュニア世代」に向けた選書を行う。学び方、学ぶ力を身に付け、生涯学習に繋がる資料を収集する。高齢者向けの選書を継続する。

- ・高齢者に向けた「人生を楽しむための資料」の選書を継続する。

- ・団塊ジュニア世代の利用拡充を目指し、多様な生き方・働き方、仕事のスキルアップや副業などの情報収集のための資料を選書する。
- ・児童書は、長く読み継がれている基本図書の充実を図る。